



# メンテナンスコンソールを使用する Active IQ Unified Manager

NetApp  
October 15, 2025

# 目次

メンテナンスコンソールを使用する	1
メンテナンス コンソールで提供される機能	1
メンテナンス ユーザの役割	1
診断ユーザの権限	1
メンテナンス コンソールへのアクセス	2
vSphere VM コンソールを使用してメンテナンス コンソールにアクセスする	3
メンテナンス コンソールのメニュー	3
[Network Configuration]メニュー	4
[System Configuration]メニュー	5
[Support and Diagnostics]メニュー	7
その他のメニュー オプション	7
Windowsでメンテナンスユーザーのパスワードを変更する	9
Linuxシステムでumadminパスワードを変更する	9
Unified Manager が HTTP および HTTPS プロトコルに使用するポートを変更する	9
ネットワークインターフェースを追加する	10
Unified Managerデータベースディレクトリにディスクスペースを追加する	11
Linuxホストのデータディレクトリにスペースを追加する	11
VMware仮想マシンのデータディスクにスペースを追加する	13
Microsoft Windows サーバーの論理ドライブにスペースを追加します	14

# メンテナンスコンソールを使用する

メンテナンス コンソールを使用すると、ネットワーク設定を構成したり、Unified Manager がインストールされているシステムを構成し管理したり、発生する可能性のある問題を防止およびトラブルシューティングするのに役立つその他のメンテナンス タスクを実行したりできます。

## メンテナンス コンソールで提供される機能

Unified Manager メンテナンス コンソールを使用すると、Unified Manager システムの設定を維持し、問題の発生を防ぐために必要な変更を加えることができます。

Unified Manager がインストールされているオペレーティング システムに応じて、メンテナンス コンソールは次の機能を提供します。

- 仮想アプライアンスに関する問題のトラブルシューティング（特にUnified Manager Webインターフェイスが利用できない場合）
- Unified Manager の新しいバージョンにアップグレードする
- テクニカル サポートに送信するサポート バンドルの生成
- ネットワークの設定
- メンテナンス ユーザのパスワードの変更
- パフォーマンス統計の送信を目的とした外部データ プロバイダへの接続
- パフォーマンス データ収集の内部変更
- 以前にバックアップしたバージョンから Unified Manager データベースと構成設定を復元します。

## メンテナンス ユーザの役割

Unified ManagerをRed Hat Enterprise Linuxシステムにインストールする場合、インストール時にメンテナンス ユーザが作成されます。メンテナンス ユーザー名は「umadmin」ユーザーです。メンテナンス ユーザは、Web UIでアプリケーション管理者のロールを割り当てられ、他のユーザを作成してロールを割り当てることができます。

メンテナンス ユーザまたはumadminユーザは、Unified Managerのメンテナンス コンソールにもアクセスできます。

## 診断ユーザの権限

診断アクセスの目的は、テクニカル サポートからトラブルシューティングのサポートを受けられるようにすることです。このため、テクニカル サポートから指示された場合のみ診断アクセスを使用する必要があります。

診断ユーザは、テクニカル サポートからの指示を受けて、トラブルシューティングの目的でOSレベルのコマンドを実行できます。

# メンテナンス コンソールへのアクセス

Unified Managerユーザ インターフェイスが動作状態でない場合、またはこのユーザ インターフェイスにない機能を実行する必要がある場合は、メンテナンス コンソールにアクセスしてUnified Managerシステムを管理できます。

開始する前に

Unified Managerをインストールして設定しておく必要があります。

15分間操作しないと、メンテナンス コンソールからログアウトされます。



VMwareにインストールした場合、VMwareコンソールからメンテナンス ユーザとしてすでにログインしているときは、Secure Shellを使用して同時にログインできません。

手順

1. 次の手順に従ってメンテナンス コンソールにアクセスします。

このオペレーティング システムでは...	次の手順に従ってください...
VMware	<ol style="list-style-type: none"><li>a. Secure Shellを使用して、Unified Manager仮想アプライアンスのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名に接続します。</li><li>b. メンテナンス ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。</li></ol>
Linux	<ol style="list-style-type: none"><li>a. Secure Shellを使用して、Unified ManagerシステムのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名に接続します。</li><li>b. メンテナンス ユーザ (umadmin) の名前とパスワードでシステムにログインします。</li><li>c. コマンドを入力してください `maintenance_console` Enter キーを押します。</li></ol>
Windows	<ol style="list-style-type: none"><li>a. 管理者のクレデンシャルでUnified Managerシステムにログインします。</li><li>b. Windows管理者としてPowerShellを起動します。</li><li>c. コマンドを入力してください `maintenance_console` Enter キーを押します。</li></ol>

Unified Managerメンテナンス コンソール メニューが表示されます。

# vSphere VM コンソールを使用してメンテナンス コンソールにアクセスする

Unified Managerユーザ インターフェイスが動作状態でない場合、またはこのユーザ インターフェイスにない機能を実行する必要がある場合は、メンテナンス コンソールにアクセスして仮想アプライアンスを再設定できます。

開始する前に

- メンテナンス ユーザーである必要があります。
- メンテナンス コンソールにアクセスするには、仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。

手順

1. vSphere Clientで、Unified Manager仮想アプライアンスを見つけます。
2. \*コンソール\*タブをクリックします。
3. コンソール ウィンドウ内をクリックしてログインします。
4. ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンス コンソールにログインします。

15分間操作しないと、メンテナンス コンソールからログアウトされます。

## メンテナンス コンソールのメニュー

メンテナンス コンソールは、Unified Manager サーバーの特別な機能と構成設定を保守および管理できるさまざまなメニューで構成されています。

Unified Manager がインストールされているオペレーティング システムに応じて、メンテナンス コンソールは次のメニューで構成されます。

- Upgrade Unified Manager (VMwareのみ)
- Network Configuration (VMwareのみ)
- System Configuration (VMwareのみ)
  - a. Support/Diagnostics
  - b. Reset Server Certificate
  - c. External Data Provider
  - d. Backup Restore
  - e. Performance Polling Interval Configuration
  - f. SAML認証を無効にする
  - g. View/Change Application Ports
  - h. Debug Log Configuration
  - i. Control access to MySQL port 3306
  - j. 出口

希望するメニュー オプションの番号をリストから選択します。たとえば、バックアップと復元の場合は、4 を選択します。

## [Network Configuration]メニュー

[Network Configuration]メニューでは、ネットワーク設定を管理することができます。このメニューは、Unified Managerユーザ インターフェイスを使用できない場合に使用してください。



Unified ManagerがRed Hat Enterprise LinuxまたはMicrosoft Windowsにインストールされている場合は、このメニューを使用できません。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- IPアドレス設定を表示

仮想アプライアンスの現在のネットワーク設定が表示されます (IPアドレス、ネットワーク、ブロードキャスト アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバなど)。

- IPアドレス設定の変更

仮想アプライアンスのネットワーク設定を変更することができます (IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバなど)。メンテナンス コンソールでネットワーク設定をDHCPから静的ネットワークに切り替えた場合は、ホスト名を編集できません。変更を反映するには、[変更をコミット] を選択する必要があります。

- ドメイン名検索設定を表示

ホスト名の解決に使用されるドメイン名検索リストが表示されます。

- ドメイン名検索設定を変更

ホスト名を解決する際に検索するドメイン名を変更することができます。変更を反映するには、[変更をコミット] を選択する必要があります。

- 静的ルートを表示

現在の静的ネットワーク ルートが表示されます。

- 静的ルートを変更する

静的ネットワーク ルートを追加または削除することができます。変更を反映するには、[変更をコミット] を選択する必要があります。

- ルートを追加

静的ルートを追加することができます。

- ルートを削除

静的ルートを削除することができます。

- 戻る

メイン メニュー に戻ります。

- 出口

メンテナンス コンソールを終了します。

- ネットワークインターフェースを無効にする

使用可能なネットワーク インターフェースを無効にします。使用可能なネットワーク インターフェースが1つしかない場合は、それを無効にすることはできません。変更を反映するには、[変更をコミット]を選択する必要があります。

- ネットワークインターフェースを有効にする

使用可能なネットワーク インターフェースを有効にします。変更を反映するには、[変更をコミット]を選択する必要があります。

- 変更をコミット

仮想アプライアンスのネットワーク設定に加えた変更を適用します。変更を有効にするには、必ずこのオプションを選択します。そうしないと、変更は適用されません。

- ホストにpingを送信

IPアドレスの変更やDNS設定を確認するために、ターゲット ホストにpingを実行します。

- デフォルト設定に戻す

すべての設定を工場出荷時のデフォルトにリセットします。変更を反映するには、[変更をコミット]を選択する必要があります。

- 戻る

メイン メニュー に戻ります。

- 出口

メンテナンス コンソールを終了します。

## [System Configuration]メニュー

[System Configuration]メニューには、仮想アプライアンスを管理するためのさまざまなオプションが用意されています（サーバ ステータスの表示、仮想マシンのリブートとシャットダウンなど）。



Unified Manager が Linux または Microsoft Windows システムにインストールされている場合、このメニューからは「Unified Manager バックアップからの復元」オプションのみが使用できません。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- サーバステータスの表示

現在のサーバステータスを表示します。ステータスには「Running」と「Not Running」があります。

サーバが実行されていない場合は、テクニカルサポートに連絡することを推奨します。

- 仮想マシンを再起動

すべてのサービスを停止して仮想マシンをリブートします。リブート後、仮想マシンとサービスが再起動します。

- 仮想マシンをシャットダウン

すべてのサービスを停止して仮想マシンをシャットダウンします。

このオプションは、仮想マシン コンソールからのみ選択できます。

- <ログインユーザー>のユーザーパスワードを変更する

現在ログインしているユーザ（メンテナンス ユーザ）のパスワードを変更します。

- データディスクサイズの増加

仮想マシンのデータ ディスク（ディスク3）のサイズを拡張します。

- スワップディスクのサイズを増やす

仮想マシンのスワップ ディスク（ディスク2）のサイズを拡張します。

- タイムゾーンの変更

タイムゾーンを現在の場所に変更します。

- **NTP**サーバーの変更

NTPサーバの設定を変更します（IPアドレスや完全修飾ドメイン名（FQDN）など）。

- **NTP**サービスの変更

切り替える `ntp`そして `systemd-timesyncd`サービス。

- **Unified Manager** バックアップからの復元

以前にバックアップしたバージョンから Unified Manager データベースと構成設定を復元します。

- サーバー証明書をリセット

サーバセキュリティ証明書をリセットします。

- ホスト名を変更する

仮想アプライアンスがインストールされているホストの名前を変更します。

- 戻る

[System Configuration]メニューを終了して[Main Menu]に戻ります。

- 出口

メンテナンス コンソール メニューを終了します。

## [Support and Diagnostics]メニュー

「サポートと診断」メニューを使用すると、トラブルシューティングの支援のためにテクニカル サポートに送信できるサポート バンドルを生成できます。

表示されるメニュー オプションは次のとおりです。

- ライトサポートバンドルを生成する

30日分のログと構成データベース レコードのみを含む軽量なサポート バンドル（パフォーマンス データ、取得記録ファイル、サーバ ヒープ ダンプは含まれません）を作成できます。

- サポートバンドルの生成

ユーザのホーム ディレクトリに、診断情報を含む完全なサポート バンドル（7-Zipファイル）を作成できます。システムがインターネットに接続されている場合は、サポート バンドルをNetAppにアップロードすることもできます。

ファイルには、AutoSupportメッセージによって生成された情報、Unified Manager データベースの内容、Unified Manager サーバ内部の詳細データ、およびAutoSupportメッセージや軽量サポート バンドルに通常は含まれない詳細レベルのログが含まれます。

## その他のメニュー オプション

次のメニュー オプションを使用すると、Unified Manager サーバ上でさまざまな管理タスクを実行できます。

表示されるメニュー項目は次のとおりです。

- サーバ証明書をリセット

HTTPSサーバ証明書を再生成します。

Unified Manager GUI で [一般] > [HTTPS 証明書] > [HTTPS 証明書の再生成] をクリックすると、サーバ証明書を再生成できます。

- **SAML**認証を無効にする

SAML 認証を無効にして、アイデンティティ プロバイダー (IdP) が Unified Manager GUI にアクセスするユーザーに対してサインオン認証を提供しないようにします。このコンソール オプションは通常、IdP サーバまたは SAML 構成の問題によりユーザーが Unified Manager GUI にアクセスできない場合に使用さ

れます。

- 外部データプロバイダー

Unified Manager を外部データ プロバイダーに接続するためのオプションを提供します。接続が確立されると、パフォーマンス データが外部サーバに送信されて、ストレージ パフォーマンスのエキスパートがサードパーティ ソフトウェアを使用してパフォーマンス指標をグラフ化できるようになります。次のオプションが表示されます。

- サーバー構成の表示 - 外部データ プロバイダーの現在の接続と構成設定を表示します。
- サーバー接続の追加/変更 - 外部データ プロバイダーの新しい接続設定を入力したり、既存の設定を変更したりできます。
- サーバー構成の変更 - 外部データ プロバイダーの新しい構成設定を入力したり、既存の設定を変更したりできます。
- サーバー接続の削除 - 外部データ プロバイダーへの接続を削除します。

接続を削除すると、Unified Managerは外部サーバから切断されます。

- バックアップの復元

詳細については、以下のトピックを参照してください。"[バックアップとリストア処理の管理](#)"。

- パフォーマンスポーリング間隔の設定

Unified Manager がクラスタからパフォーマンス統計データを収集する頻度を構成するオプションを提供します。デフォルトの収集間隔は5分です。

大規模なクラスタからの収集が時間内に完了しない場合は、この間隔を10分または15分に変更できます。

- アプリケーションポートの表示/変更

Unified ManagerがHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するデフォルトのポートを変更するためのオプションを提供します（セキュリティ上必要である場合）。デフォルトのポートは、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。

- **MySQL**ポート**3306**へのアクセスを制御する

ホストからデフォルトのMySQLポート3306へのアクセスを制御します。セキュリティ上の理由から、Linux、Windows、およびVMware vSphereシステムへのUnified Managerの新規インストール中は、このポートを使用したアクセスはローカル ホストに限定されます。このオプションを使用すると、このポートの認識をローカル ホストとリモート ホストの間で切り替えることができます。つまり、このオプションをローカル ホストに対してのみ有効にすると、リモート ホストでポート3306を使用できるようになります。逆に、すべてのホストに対して有効にすると、このポートのアクセスをローカル ホストに限定できます。アップグレード前にリモート ホストでアクセスが有効になっていれば、アップグレード後もその設定が維持されます。ポートの認識を切り替えたら、Windowsシステムのファイアウォール設定を確認し、MySQLポート3306へのアクセスが制限されている場合はファイアウォールの設定を無効にする必要があります。

- 出口

メンテナンス コンソール メニューを終了します。

# Windowsでメンテナンスユーザーのパスワードを変更する

必要に応じて、Unified Manager メンテナンス ユーザーのパスワードを変更できます。

手順

1. Unified Manager Web UI ログイン ページで、[パスワードを忘れた場合] をクリックします。

パスワードをリセットするユーザの名前を入力するように求めるページが表示されます。

2. ユーザー名を入力し、「送信」をクリックします。

入力したユーザ名に定義されているEメール アドレスに、パスワードをリセットするためのリンクが記載されたEメールが送信されます。

3. メール内の\*パスワードリセットリンク\*をクリックし、新しいパスワードを定義します。

4. Web UI に戻り、新しいパスワードを使用して Unified Manager にログインします。

# Linuxシステムでumadminパスワードを変更する

セキュリティ上の理由から、インストール プロセスの完了後すぐにUnified Manager のumadminユーザのデフォルト パスワードを変更する必要があります。このパスワードは、必要に応じてあとからいつでも再変更できます。

開始する前に

- Unified ManagerがRed Hat Enterprise Linuxシステムにインストールされている必要があります。
- Unified ManagerがインストールされているLinuxシステムのrootユーザのクレデンシャルが必要です。

手順

1. Unified Managerが実行されているLinuxシステムにrootユーザとしてログインします。

2. umadminパスワードを変更します。

```
passwd umadmin
```

umadminユーザの新しいパスワードを入力するように求められます。

# Unified Manager が HTTP および HTTPS プロトコルに使用するポートを変更する

Unified ManagerがHTTPおよびHTTPSプロトコルに使用するデフォルトのポートは、インストール後に変更できます（セキュリティ上必要な場合）。デフォルトのポートは、HTTPの場合は80、HTTPSの場合は443です。

開始する前に

Unified Managerサーバのメンテナンス コンソールへのログインが許可されているユーザIDとパスワードが必要です。



Mozilla FirefoxまたはGoogle Chromeブラウザでは、安全でないとみなされるポートがいくつかあります。HTTPトラフィックとHTTPSトラフィックに新しいポート番号を割り当てる前にブラウザで確認してください。安全でないポートを選択すると、システムにアクセスできなくなる可能性があります。その場合、カスタマー サポートに連絡して解決を依頼する必要があります。

ポートを変更するとUnified Managerのインスタンスが自動的に再起動されるため、システムを短時間停止しても問題のないタイミングであることを確認してください。

1. SSHを使用して、Unified Managerホストにメンテナンス ユーザとしてログインします。

Unified Managerメンテナンス コンソールのプロンプトが表示されます。

2. アプリケーション ポートの表示/変更 というメニュー オプションの番号を入力し、Enter キーを押します。
3. プロンプトが表示されたら、メンテナンス ユーザのパスワードをもう一度入力します。
4. HTTPポートとHTTPSポートの新しいポート番号を入力し、Enterキーを押します。

ポート番号を空白のままにした場合は、プロトコルのデフォルトのポートが割り当てられます。

ポートを変更してUnified Managerをすぐに再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5. ポートを変更して Unified Manager を再起動するには、「y」と入力します。
6. メンテナンス コンソールを終了します。

この変更後、ユーザーは Unified Manager Web UI にアクセスするために URL に新しいポート番号を含める必要があります (例: <https://host.company.com:1234>、<https://12.13.14.15:1122>、または [https://\[2001:db8:0:1\]:2123](https://[2001:db8:0:1]:2123))。

## ネットワークインターフェースを追加する

ネットワーク トラフィックを分離する必要がある場合は、新しいネットワーク インターフェイスを追加できます。

開始する前に

vSphereを使用して仮想アプライアンスにネットワーク インターフェイスを追加しておく必要があります。

仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。



Unified ManagerがRed Hat Enterprise LinuxまたはMicrosoft Windowsにインストールされている場合は、この処理を実行できません。

手順

1. vSphere コンソールのメイン メニューで、システム構成 > オペレーティング システムの再起動 を選択します。

再起動すると、新たに追加したネットワーク インターフェイスがメンテナンス コンソールで検出されます。

2. メンテナンス コンソールにアクセスします。
3. ネットワーク構成 > ネットワーク インターフェースの有効化 を選択します。
4. 新しいネットワーク インターフェイスを選択し、**Enter** を押します。

**eth1** を選択し、**Enter** を押します。

5. ネットワーク インターフェイスを有効にするには、**y** と入力します。
6. ネットワークの設定を入力します。

静的インターフェイスを使用している場合、またはDHCPが検出されない場合は、ネットワークの設定を入力するよう求められます。

ネットワーク設定を入力すると、自動的に\*ネットワーク構成\*メニューに戻ります。

7. \*変更をコミット\*を選択します。

ネットワーク インターフェイスを追加するには、変更をコミットする必要があります。

## Unified Managerデータベースディレクトリにディスクスペースを追加する

ONTAPシステムから収集された健全性とパフォーマンスのデータは、すべてUnified Managerデータベース ディレクトリに格納されます。状況によっては、データベース ディレクトリのサイズの拡張が必要になることがあります。

たとえば、Unified Managerで多数のクラスタからデータを収集している場合、各クラスタに大量のノードがあると、データベース ディレクトリがいっぱいになることがあります。データベース ディレクトリの容量の95%に達すると警告イベントが生成され、95%に達すると重大イベントが生成されます。



ディレクトリの容量の95%に達すると、クラスタからデータが収集されなくなります。

データ ディレクトリの容量を追加する手順は、Unified ManagerをVMware ESXiサーバ、Red Hatサーバ、Microsoft Windowsサーバのいずれで実行しているかによって異なります。

### Linuxホストのデータディレクトリにスペースを追加する

十分なディスク容量がない場合は、`/opt/netapp/data` Linuxホストを最初にセットアップしてUnified ManagerをインストールしたときにUnified Managerをサポートするためにディレクトリを作成した場合、インストール後にディスク容量を増やすことでディスク容量を追加できます。``/opt/netapp/data``ディレクトリ。

開始する前に

Unified ManagerがインストールされているRed Hat Enterprise Linuxマシンへのrootユーザ アクセスが必要です。

データ ディレクトリのサイズを拡張する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

## 手順

1. ディスク スペースを追加するLinuxマシンにrootユーザとしてログインします。
2. Unified Managerサービスと関連するMySQLソフトウェアを次の順序で停止します。

```
systemctl stop ocieau ocie mysqld
```

3. 一時的なバックアップフォルダを作成します（例： /backup-data ）現在のデータを格納するのに十分なディスク容量を持つ `opt/netapp/data` ディレクトリ。
4. 既存のコンテンツと権限設定をコピーします `opt/netapp/data` ディレクトリをバックアップデータディレクトリに変更します。

```
cp -arp /opt/netapp/data/* /backup-data
```

5. SE Linuxが有効になっている場合は、次の手順を実行します。

- a. 既存のフォルダのSE Linuxタイプを取得します `opt/netapp/data` フォルダ：

```
se_type= ls -Z /opt/netapp/data | awk '{print $4}' | awk -F: '{print $3}' | head -1
```

次のような情報が返されます。

```
echo $se_type  
mysqld_db_t
```

- a. chconコマンドを実行して、バックアップ ディレクトリに対してSE Linuxタイプを設定します。

```
chcon -R --type=mysqld_db_t /backup-data
```

6. 内容を削除する `opt/netapp/data` ディレクトリ：

- a. cd /opt/netapp/data
- b. rm -rf \*

7. サイズを拡大する `opt/netapp/data` LVM コマンドまたはディスクの追加によって、ディレクトリを最低 150 GB まで拡張します。



作成した場合は `opt/netapp/data` ディスクからマウントしようとしないでください `opt/netapp/data` NFS または CIFS 共有として。この場合、ディスクスペースを拡張しようとすると、次のようなLVMコマンドが実行される可能性があるためです。 `resize` そして `extend` 期待通りに動作しない可能性があります。

8. 確認する `opt/netapp/data` ディレクトリの所有者 (mysql) とグループ (root) は変更されません。

```
ls -ltr /opt/netapp/ | grep data
```

次のような情報が返されます。

```
drwxr-xr-x. 17 mysql root 4096 Aug 28 13:08 data
```

9. SE Linuxが有効になっている場合は、`/opt/netapp/data`ディレクトリは引き続き `mysqld_db_t` に設定されています:

- a. `touch /opt/netapp/data/abc`
- b. `ls -Z /opt/netapp/data/abc`

次のような情報が返されます。

```
-rw-r--r--. root root unconfined_u:object_r:mysqld_db_t:s0  
/opt/netapp/data/abc
```

10. ファイル`abc`を削除して、この無駄なファイルがデータベース エラーの原因にならないようにします。
11. バックアップデータの内容を拡張されたファイルにコピーします。`/opt/netapp/data`ディレクトリ:

```
cp -arp /backup-data/* /opt/netapp/data/
```

12. SE Linuxが有効になっている場合は、次のコマンドを実行します。

```
chcon -R --type=mysqld_db_t /opt/netapp/data
```

13. MySQLサービスを開始します。

```
systemctl start mysqld
```

14. MySQLサービスが開始されたら、`ocie`サービスと`ocieau`サービスを次の順序で開始します。

```
systemctl start ocie ocieau
```

15. すべてのサービスが開始されたら、バックアップフォルダを削除します。 `/backup-data` :

```
rm -rf /backup-data
```

## VMware仮想マシンのデータディスクにスペースを追加する

Unified Managerデータベースのデータ ディスクのスペースを増やす必要がある場合は、インストール後にUnified Managerメンテナンス コンソールを使用して容量を追加できます。

開始する前に

- vSphere Clientへのアクセス権が必要です。
- 仮想マシンにスナップショットがローカルに格納されていない必要があります。
- メンテナンス ユーザのクレデンシャルが必要です。

仮想ディスクのサイズを拡張する前に仮想マシンをバックアップすることを推奨します。

#### 手順

1. vSphereクライアントでUnified Manager仮想マシンを選択し、データにディスク容量を追加します。disk 3。詳細については、VMwareのドキュメントを参照してください。

まれに、Unified Managerの展開で、データディスクとして「ハードディスク 3」ではなく「ハードディスク 2」が使用されることがあります。その場合は、大きい方のディスクのスペースを増やしてください。データディスクのスペースは、常に他のディスクより大きくなります。

2. vSphereクライアントで、Unified Manager仮想マシンを選択し、[コンソール]タブを選択します。
3. コンソールウィンドウ内をクリックし、ユーザ名とパスワードを使用してメンテナンスコンソールにログインします。
4. メインメニューで、システム構成オプションの番号を入力します。
5. システム構成メニューで、「データディスクサイズの増加」オプションの番号を入力します。

### Microsoft Windows サーバーの論理ドライブにスペースを追加します

Unified Managerデータベースのディスクスペースを増やす必要がある場合は、Unified Managerがインストールされている論理ドライブに容量を追加できます。

#### 開始する前に

Windowsの管理者権限が必要です。

ディスクスペースを追加する前にUnified Managerデータベースをバックアップすることを推奨します。

#### 手順

1. ディスクスペースを追加するWindowsサーバに管理者としてログインします。
2. スペースを追加する方法に応じて、該当する手順を実行します。

オプション	説明
物理サーバで、Unified Managerサーバがインストールされている論理ドライブに容量を追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 <a href="#">"Extend a Basic Volume"</a>
物理サーバで、ハードディスクドライブを追加する。	Microsoftの次のトピックの手順に従います。 <a href="#">"Adding Hard Disk Drives"</a>
仮想マシンで、ディスクパーティションのサイズを拡張する。	VMwareの次のトピックの手順に従います。 <a href="#">"Increasing the size of a disk partition"</a>

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。